

円小学校学校だより

個性の花咲く円の郷

令和4年11月号

ほめること・しかること



「やって見せ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」
 連合艦隊司令官だった山本五十六の言葉。
 まずは手本を示し、きちんと分かるように説明する。そして実際にやらせてみて、その過程や結果をほめることで人は成長する。今さらながら、この言葉の深さを実感します。学校でも、家庭でも、子どもを「ほめる」ことの大切さを疑う余地はありません。「ほめる」ことは相手を「見つめる」ことであり「認める」ことです。友だちや親、周囲の大人からほめ言葉のシャワーを存分に浴びた子どもは自己肯定感が高まり、真の思いやりをもつことができるでしょう。だけど…、

「ほめる」ことだけで、子どもはよりよく育つのだろうかという疑問も残ります。歌舞伎の世界では、役者一人をだめにするには、年中みんなでほめてやる、そうすれば間違いなくその役者はつぶれてしまうと言われます。なるほどね！！大切なのは「ほめる」と「しかる」ことのバランス。例えるなら自動車の両輪。「ほめる」だけ、「しかる」だけでは、自動車はその場で回転するばかり。同じだけ車輪が回転することで、初めて自動車は前へ進みます。正しい道へ導こうとするとき、時としてそこには、不義不徳を許さない厳しさも必要です。

ところで、集落内の子どもたちのようすはどうでしょうか。



危険な遊びをしてはいないでしょうか。
 自転車やキックボードの正しい乗り方はできているでしょうか。学校では、年間を通して安全指導を行っています
 が、私たち職員の目が行き届かないこともあります。

以前、勤務した小学校区には『うちの子を **しかってくれてありがとう**』と書かれた大きな看板が設置してありました。子どもの健やかな成長を地域ぐるみで後押ししているようすがうかがえる素敵な言葉です。子どもが危険なことや悪いことをしていたら、よその子であっても分け隔てなく注意することは、ひと昔前までは、どこの地域でも見られる光景でしたが、子どもを取り巻く環境は様変わりし、声をかけて、変に誤解されるのもいやだからと、子どもに話しかけづらい昨今です。しかし、たとえどんなに時代が変わっても、地域や学校、家庭が連携を取りながら、子どもたちをバックアップすることは大切です。そこにはまず、日常の大人の後ろ姿が、何よりの規範となるべきでしょう。**子どもは地域の宝**です。これからは**温かい目と厳しい目**で9名の宝子を見守っていただけたら幸いです。よろしく申し上げます。

色とりどりの…



毎年恒例の折り染め。今年は、アカショウビンやアマミイシカワガエルなど学校周辺で見かける生き物を作りました。思い思いの色に染め、個性溢れる作品が仕上がりました。冬休みに奄美パークで行われる学習発表展で展示されます。

自分に勝つ！



運動会を終えてすぐに始めた長距離走。放課後も保護者や地域の方々の協力のもと練習を積み重ねました。新記録賞は1人でしたが、全員がこれまでの練習の記録を更新しました。伴走や沿道からのご声援ありがとうございました。

また、3年ぶりに町の4大行事のひとつ、駅伝競走大会が開催されました。円集落代表として姫野千葵さん（2区）と森居湊陽さん（8区）が力走しました。

12月の行事予定

日	曜	行事名等
2	金	第2回学校評議員会 第2回円校区教育懇談会
9	金	人権学習会（家庭教育学級） 全校PTA
10	土	土曜授業日（もちつき大会）
11	日	第52回龍郷町ロードレース大会
13	火	町学校保健研究大会
17	土	第5回子ども博物学士講座
23	金	2学期終業式 大掃除